

広島県感染症発生动向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成17年6月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症

平成17年5月分(平成17年5月2日~5月29日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	1,345	2.80	0.13	↓	12	ヘルパンギーナ	21	0.07	0.45	↗
2	RSウイルス感染症	5	0.02	-		13	麻疹	3	0.01	0.24	
3	咽頭結膜熱	101	0.34	0.26	↑	14	流行性耳下腺炎	641	2.14	1.02	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	271	0.90	0.97	⇨	15	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.06	
5	感染性胃腸炎	1,578	5.26	5.31	↘	16	流行性角結膜炎	89	1.11	1.28	⇨
6	水痘	540	1.80	1.95	↗	17	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
7	手足口病	440	1.47	0.51	↑	18	無菌性髄膜炎	6	0.07	0.06	
8	伝染性紅斑	42	0.14	0.31	⇨	19	マイコプラズマ肺炎	12	0.14	0.11	↗
9	突発性発しん	184	0.61	0.70	⇨	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	4	0.01	0.02		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	2	0.01	0.04		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	⇨	⇨
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	35	1.30	2.29	◇	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	99	4.71	5.28	◇
23	性器ヘルペスウイルス感染症	19	0.70	0.50	□	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	51	2.43	2.79	□
24	尖圭コンジローマ	17	0.63	0.47	▲	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	0.39	
25	淋菌感染症	5	0.19	1.00		「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

インフルエンザ 急減（4月3,140件 5月1,345件）
 咽頭結膜熱 急増（4月50件 5月101件）
 手足口病 急増（4月139件 5月440件）
 尖圭コンジローマ 急増（4月5件 5月17件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症 発生なし
 二類感染症 発生なし
 三類感染症 7件発生【腸管出血性大腸菌感染症 { O157 5件（尾三地域保健所管内2件，広島市保健所管内3件）
 O26 2件（福山市保健所管内） }
 四類感染症 2件発生【A型肝炎1件（広島市保健所管内），つつが虫病1件（備北地域保健所管内）】
 全数把握五類感染症 4件発生【後天性免疫不全症候群1件（東広島地域保健所管内）
 アメーバ赤痢2件（広島市保健所管内）
 B型肝炎1件（広島市保健所管内）】

一般情報

<これから注意を要する感染症>

現在，咽頭結膜炎（プール熱），流行性耳下腺炎（おたふくかぜ），ヘルパンギーナ，手足口病が流行又は流行の兆しがあり，これから注意を要する病気です。

なお，本年4月，5月の広島県感染症発生動向調査の一般情報にも概要を掲載していますので，参照してください。

咽頭結膜炎（プール熱）

病原体はアデノウイルスで，感染してから5～7日で発症します。

感染経路は飛沫感染で，経口あるいは経結膜感染もあります。

症状は発熱，頭痛，食欲不振，全身倦怠，咽頭痛，結膜充血，眼痛等です。

予防法は，感染者との接触を避ける，うがい，手洗いの励行で，プールに入る前や出るときはシャワーを十分にいき，タオルの共用はやめましょう。

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

病原体はムンプスウイルスで，感染してから2～3週間（通常は16～18日）で発病します。

症状は唾液腺の中でも耳下腺，特に耳下腺が侵されることが多く腫脹します。微熱や全身の倦怠感があります。

特別な治療法はなく，症状を少し楽にする方法（対症療法）が行なわれています。

予防法は，任意のワクチン接種が有効です。

手足口病

病原体はエンテロウイルスで，感染してから3～5日で発症します。感染経路は飛沫感染，糞口感染，水疱内容物の直接感染があります。

症状は，感染してから，口腔粘膜及び四肢末に現れる水疱性の発疹が特徴で，発症者の1/3に軽度の発熱があります。

基本的には数日間で自然治癒する病気です。

予防方法は排泄物の取扱い注意と，手洗いの励行が重要です。

ヘルパンギーナ

病原体はコクサッキーウイルスで，感染してから2～4日で発病します。症状は発熱，咽頭痛，頭痛，筋肉痛等です。

感染は急性期ののどからウイルスが排泄されるため，咳をしたときの飛沫感染によることが多いが，便からもウイルスが排出されます。

予防法は，乳幼児のオムツの交換の際には，手洗いの励行を行なうことと，洗濯物を日光で乾かすことなどです。